

新善光寺寺報 北 縁

2019年1月

Vol. 39

ほくえん



年頭所感

新たな年を迎え、皆様におかれましては、清々しくお過ごしのことと存じます。いつも当寺の護持発展にご理解ご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

平成がいよいよ幕を閉じようとしています。昨年末、宮殿石橋の間において会見された天皇陛下のおことばに、胸を熱くされた方も多いのではないのでしょうか。そのおことばの中で、「平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵しています」とありました。深く深く心に刻みたいおことばと痛感します。

さて、今年は長らく修理をしていた浄土宗の総本山知恩院の御影堂の工事が完了します。法然上人の御教^みえを伝える道場が円成することは、大変うれしく思います。9歳の時、父上様を亡くされるという争いの悲惨さを体験された法然上人も、今の世の平和を願ってくださっていると拝察し、これからの新元号の時代も平和な世であることを切に祈ります。

住職 太田 眞琴



前列左より 松尾一志(83歳) 太田真海(34歳)(副住職) 太田眞琴(70歳)(住職)
太田光顯(37歳)(清璋寺住職) 野崎幸史(68歳)
後列左より 駒木根琴生(77歳) 宗川信章(54歳) 立花俊輔(38歳) 堀内和紀(46歳)

東京だより

霊源寺 改修工事が終わりました

品川区にある東京別院霊源寺において本堂の改修工事をおこないました。

本堂は昭和 63 年に完成したもので、外壁や内装などで汚れや剥がれなどがいたるところでみられ、またトイレも古い作りでご不便をかけていました。

アトリエ本間建築工房の本間博氏の設計監理のもと平成 30 年 6 月から 8 月 31 日まで本堂及びその他の改修工事をおこないました。

大きく変わったところは本堂の外観ではないでしょうか。えんじ色から思い切って新善光寺の本堂と同じ色にしました。

またお参りに来る方の利便性を一番に考え、1 階・2 階トイレを全面改装し、2 階の会食場所も外靴のまま入れるようにしました。

今回の改修工事に関しましては先の新善光寺改修工事と同様に特段の寄付を頂戴せず、常日頃よりいただいている浄財にて行わせていただいたことも報告いたします。



改修前



工事中



霊源寺では春彼岸と秋彼岸法要をおこなっており、毎回副住職がお参りに行っております。

また東京近郊にお住まいのお檀家様宅へのお盆参りや、月命日のお参り、霊源寺での年忌法要など各種お参りや葬儀も承っております。

納骨堂もあり、立地面や費用面からも大変ご好評をいただいております。

〒 142-0063
東京都品川区荏原 1 丁目 1 番 2 号
TEL 03-3494-1083

霊源寺

検索

新善光寺がテレビで放送されました

ありがたいことに平成 30 年の数か月の間に、3つの番組において新善光寺が紹介されました。

STV（札幌テレビ放送） 9月13日放映

「“どさんこワイド” ～てくてく洋二 すすきの編」

すすきには6つ寺院があり、寺町という側面もあるということからの企画だったようです。

明治期、すすきのはマチの中心に位置しながらも大通周辺に比べ、まだまだ土地も豊富にあったということも寺院が多くある理由の1つということでした。

松尾一志師が出演し、貴重な話も多くされていました。



HTB（北海道テレビ放送） 7月27日放映

「イチオシ～寺町すすきのガイドツアー～歴史と文化にふれる」

現在は休止していますが、昨年“お寺を巡るガイドツアー”が開催されました。その中身をアナウンサーの福永裕梨さんが、一般参加者の方たちと共に体験するという企画でした。

副住職が出演し、重要文化財級といわれている阿弥陀如来坐像の紹介や木魚体験などをしました。

お檀家の皆様におかれましては、いつでも本堂や各仏像への参拝ができますので、お気軽にお問い合わせください。



テレビ信州 7月16日放映

「ゆうがた Get！～夏の北海道大満喫ツアー」

信州のお寺といえば善光寺、札幌にも“善光寺”というその名の付いた寺院があるということから取材にいられました。善光寺と新善光寺の関係性についてお話をさせていただきました。ちなみに平成19年7月にも同番組から取材を受けておりました。



沢山のお像の寄贈がありました！！

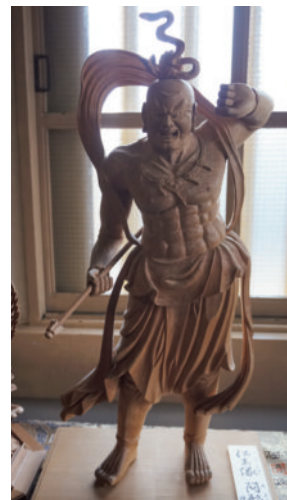
社会福祉法人札幌慈啓会が委託を受けています札幌市中央区第3地域包括支援センターを介して、三宅三郎様より多数のお像の寄贈をいただきました。

三宅様は故・林瑞朋氏に教えられ約30年前から仏像を彫り始めたとのこと。どのお像も非常に素晴らしい出来栄で、時間も忘れて集中して見ていられます。

今回は終活の一環ということで、どこか安心できるところでもらってもらえないかというところからのお話でした。

12月21日に副住職が二月堂仏具店さんの協力を得て、ご自宅から新善光寺へと2回に分けて運び出しました。

現在、本堂にて展示しております見学は自由にできます。(申込不要で寺務所にお声がけください。本堂での展示は3月上旬までの予定です。)



シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし ⑰

今回は次第の最後から二番目、「三唱礼」のおはなしです。この「お勤めのはなし」では初めて音の旋律をつけてお唱えする偈文としてご紹介します。また、あわせて行う作法のこともご紹介します。一般的にご自宅で勤める場合は、動作を伴う作法は省略しますので、参考までに読んでいただければと思います。

・三唱礼

この偈文は、阿弥陀さまのみ名であるお念仏を三回唱えて一礼する動作をすることから「三唱礼」といいます。「流通分」で再び阿弥陀如来へ帰依を表明するとともに、おつとめのはじめにお迎えした諸仏諸菩薩への「お別れ」をまごころこめて唱えるものです。

三唱礼を唱える時は、抑揚（節と呼ばれる旋律）をつけて阿弥陀さまの名（お念仏）をおとなえします。そして、おとなえする時には、礼拝という作法も同時に行います。三唱礼の節（旋律）を図1、偈文を図2に示します。

(図1) 三唱礼



(図2) 三唱礼（三唱を三回唱えます）

●	なー	む	あー	み	だー	ぶ
	● 南	無	阿	弥	陀	仏
	なー	む	あー	み	だー	ぶ
	南	無	阿	弥	陀	仏
	なー	む	あー	み	だー	ぶ
	南	無	阿	弥	陀	●● 仏

● : 鳴らしものの打つ場所を指します。

お寺でとなえる時、合図は通常「割尺^{かいしゃく}」という拍子木を使用しますが、ご家庭で勤める場合は木魚でも鈴でもよろしいと思います。句頭で一下合図を打ち、唱えはじめます。礼拝はお唱えと同時にすることが本義で、「五体投地接足作礼^{ごたいとうちせつそくさらい}」(=額、両肘、両膝を下に付けて行う礼のこと)という礼拝を行います。この礼拝のことを「上品礼^{じょうほんらい}」とも言いますが、座った状態から一度立ち上がり、また座った後、体の五つの箇所を下に付けて礼を行うという作法となりますので、足、ひざなどに痛みのある方は無理をせず、座ったまま礼をするようにしていただいても結構だと思います。

・上品礼の作法

- ①正座、合掌の状態から、一唱目の「南無阿弥陀仏」をとなえはじめます。「なーむあーみだーぶ」の「なーむ」で左ひざを立て、「あーみ」で左足を立てながら起立し、「だーぶ」で左足を右足に揃えます。
- ②二唱目の「なーむあーみだーぶ」は合掌、起立のままとなえます。この時、目線はご本尊の尊容を拝します。
- ③三唱目はゆっくりと合掌のまま膝、腰を落としていき、「だーぶ」のところあたりで礼拝をします。この時、額、両肘、両膝を下に付け、両手は耳の上に出し、手のひらは開いて上に向けます。手のひらには阿弥陀さまの両足を掌にいただく気持ちを表したものです。これは最高の崇拝の形です。

三唱礼はこの日常勤行の中でお唱えする以外には、特別に時間を設けて念仏と礼拝を行う「別時會^{べつじえ}」というお勤めでもお唱えします。この時は、ただひたすらに阿弥陀様への帰依を念仏と礼拝という崇拝の形をもってお勤めします。

新善光寺でも12月に「仏名會」という法要の中で、この念仏礼拝の行儀を修しています。皆様も一度ご参加してみたいかがでしょうか。

〈平成最後のお正月〉

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



あけましておめでとうございます。平成という31年間の足跡は、4月に終わりを告げる。新しい景色は、どんな色なのだろうか。確かなのは、平均寿命の著しい増加である。5人に1人が100歳に達するの、そう遠くはないとの報道を耳にするようになった。しかし、私達人間の命は、必ず幕が下りる。

昨年9月、75歳の生涯を終えた樹木希林さん。14年前に乳癌を告知された後、全身に転移してしまった。10年間、自らの死と向き合いながら女優活動を続けた。彼女の映画『日日是好日』を観た。茶道の先生役だ。「死に直面して、意識していないけれども自然に変わった思いがする」の弁通り、風格を感じた。厳しい細かい作法も見事だった。映画は、私が習っていた表千家だった。主人は、メリハリの利いた袱紗さばきの裏千家だ。昔はよく留学生を受け入れていたので、お茶でもてなした。まさに、茶道の原型を完成させた千利休の「相手の気持ちになる」という精神が伝わるのか、居心地良さそうに喜んでくれた。「毎日が良い日と受け取る」の大意を持つ禅語の日日是好日は、森田豊子さん（昭和31年生）のエッセイである。25年間続けていた茶道体験を通して、この世はすぐに解るものと、すぐに解らないものの2種類を示した。短時間で結果を求められる現在の傾向に戒めを示した。つまり、今の瞬間苦境にあっても、遠い先の楽しみに気付いて生きてほしいとの励ましでもあった。この作品に接した樹木希林さんは、人間としても、女優としても「私の人生は上出来よ」と言い切らせた。映画では役柄上、和服だった。普段は帯に香袋を好んだが、香りを禁ずる茶道に従った。

仏教にとって、お香は身近である。供養の三具足は、お香と灯明とお花である。なかでもお香を大切にされた心は、阿弥陀仏の極楽浄土に通ずる故である。香りは、目に見たり手に触れることは出来ない。しかし、四季の草花、太陽や空気、雨などの香りは、私達をより豊かな生活へと導いてくれる不思議な力があるという。まさに、阿弥陀仏の他力本願の誓いに比する。



大晦日のお茶席の一コマ

ただ頼め よろずの罪は 深くとも 我が本願の あらん限りは

この御詠歌の通り、いつも阿弥陀仏の御手の上にあるを信じて、お念仏に精進できる一年にしましょう。

映画の中で、初釜の席で使われた茶碗に描かれていた亥の年です。無病息災の象徴される年です。皆さんにとって、佳き年でありますように祈念申します。

み仏のごとく 初日の出

日本の神々と法然上人

初詣で神社に参拝したという方も多いのではないのでしょうか。私たち日本人は、お寺も神社も違和感なく双方にお参りします。法然上人（1133～1212）が生きていた平安末期から鎌倉初期の時代もそのような風潮があり、僧侶といえども日本の神々を崇拜することが求められました。しかし、法然上人は当時、日本の神々を軽んじているという世間の非難を受けます。そのもっとも顕著なのが、1205年に奈良の興福寺から朝廷に提出された『興福寺奏状』です。法然上人73歳の出来事です。今回は、法然上人が日本の神々とどう関わってきたのかということを通して、お念仏者のあり方を探ってみてみたいと思います。

法然上人が日本の神々を崇拜しないという批判は、神祇不拝とも言われました。法然上人にとって、阿弥陀さま以外にこの自己中心的なあり方をしている自身を救ってくださるお方はなく、お念仏のほかにやすらぎを得られる道はありませんでした。その法然上人の生き方が、信仰を異にする人々からみれば、神祇不拝であり、反体制として評されたのです。その法然上人ですが、神社と距離をおいていたかと言えば、必ずしもそうではありません。法然上人がある一定期間住まわれていたのが、賀茂の神宮寺（百万遍知恩寺の前身）です。神宮寺とは、神社が運営するお寺です。賀茂社は秦氏系の神社です。法然上人の母が秦氏の系譜を持つ方ですので、その関係性から生活面で賀茂社のお世話になっていたと考えられます。

ところで、阿満利磨氏は『法然の衝撃』のなかで次のように述べています。「神祇に関していえば、神祇は身近で親しい存在ではあるが、また一面では、民衆に苦役を課し、民衆から税を取り立てる元凶でもあったからである。」この一文を読んだ時、法然上人が9歳の時に起こった事件のことを想いました。その事件とは、土地の二重支配が発端となった政治的な争いで、法然上人の家が襲撃され、そのときに法然上人は父を失います。この争いの根底には、「民衆から税を取り立てる」という行為があったのです。

なぜ、神祇不拝とみえたのか。それは、法然上人自身が日本の神々を拝むことによっては、真のやすらぎを得られなかったからです。この身に本当のやすらぎをくださるのは阿弥陀さまだけであるという、法然上人の確固たる答えがあったからこそです。その答えは、決して他者に強要する信仰ではなく、我が身にとってのかけがえのない信仰なのです。9歳の時、人が人を傷つけ合う惨状を目の当たりにした法然上人は、その悲しみを抱きつつも、阿弥陀さまの慈しみの光に癒やされていました。一方で、法然上人の衣食住などの営みにおいては、賀茂神社ひいては秦氏のネットワークの支えを受けていました。

私は時々、その法然上人の足跡を訪ねて京都の下鴨神社（賀茂御祖神社）にお参りします。糺の森を通り、ご本殿にむかうと、とても心地よい気持ちになります。

神社ですが、“南無阿弥陀仏”とお念仏をお称えします。ただし、我が耳に聞こえるほどの小さな声ですが……。

〈文：立花俊輔〉



『法然上人行状絵図』巻三十四に描かれる神社

葬儀・法事は是非お寺で

昨年8月に新善光寺にてお母様のご葬儀をされた方にお話を聞いてみました。

“お寺で葬儀をするということで安心感があります”とおっしゃっていただき、特に不便だったところはなかったとのこと。また、出棺の際の鐘の音も良かったとの感想をいただきました。

葬儀に使う部屋は前の改修工事の時に直しており、全面カーペットでイス席になっております。また半分に区切ることもできるので、お参りの人数によって使い方を変えることができます。



2階広間を半分に区切った葬儀です

法事の際にお使いいただく部屋と会食用の部屋もイス席になっております。お参りの人数に合わせた部屋の用意がございます。

また、供花・供物セット（ご霊膳・積み団子付き）を依頼することもでき、地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅すぐという立地もあり、利便性が高いと思います。

最近ですと場所柄、夕方に法事をされて、その後は近くのホテルや飲食店に向かわれるというケースも増えています。



イス席です



お飾りの一例

最期のお見送りである葬儀や故人様を偲ぶ法事の際でも、新善光寺を使っただけならばと思っております。

お寺の掛軸を紹介します⑪

17 当山蔵 法然上人絵伝 第四幅

こちらの絵は、当山が所蔵する法然上人（1133～1212）の生涯を描いた4本の掛け軸の第4番目の中段のものです。法然上人が76歳の時、流罪を免れて勝尾寺（現在の大阪府箕面市）に滞在していました。その際、法然上人は自らが所持していた膨大な仏教経典を勝尾寺に差し上げました。その時の様子がこの絵です。

この経典を勝尾寺に納められた法然上人の心情は、並々ならぬ決意を感じます。法然上人が生涯をかけて求めてきた浄土の御教えのつまった大切な経典です。その経典によって、法然上人ご自身も救われ、また多くの人の心の支えとなった尊いものです。それをお世話になった勝尾寺に納めたということは、いくばくもない我が身をみつめておられたのだと拝察いたします。

そして、法然上人は79歳の時、帰洛を許され、京都・東山大谷の地（現在の知恩院）に戻ります。翌、建暦2年1月25日80歳で法然上人は、お浄土に往生されました。



～ぬくもりのある一言を～

あつ
ぬく
もりの
ある
一言を

同封の年回忌表に書かれている言葉の紹介です。

言葉は、心の使いです。一言で人の心を傷つけることもあれば、たった一言が人の救いにもなります。いつも温和な言葉をつかうことを心がけたいものですが、私たちはつい感情に振りまわされて、自分でも驚くような言葉を発してしまうことがあります。

阿弥陀さまは、そんな荒れ狂う私をもすべてご存知です。南無阿弥陀仏とつぶやきながら、この一年ぬくもりある一言を伝えたいものです。

— お檀家タウンページ ～ともいき訪問⑮—

リカープラザ鈴木

狸小路にある人情味あふれる酒屋さん

今回は狸小路6丁目のアーケード内にある“リカープラザ鈴木”様に行ってきました。

二代目店主の鈴木勉さん、現店主の3代目の鈴木誉也さんにお話しを伺いました。勉さんのご両親は非常にお寺に熱心な方であられ、新善光寺再建の際や婦人会にも尽力くださっておりました。誉也さんはかつて新善光寺境内にあった明照幼稚園の卒園児、そして勉さんには幼稚園の役員もやっていたと聞いておりました。



昭和3年にお店を始められ、当初はウイスキーなどの酒類はなかなか手に入らず、主に果物やお菓子をメインに売っていたそうです。

昭和37年に勉さんが店を継ぎ、転機が訪れたのは昭和46年1月15日の成人の日。当時は6軒続きの長屋の一店舗でした。そのうちの1軒から火が出て、みるみるうちに燃え移ってしまいました。当時働いていた従業員がちょうど成人式に出席していましたが火事を見て、すぐ戻られてきたようです。その後再建を果たしたのは鈴木さんのお店だけだったそうです。

飲食店にもお酒を卸しており、ニッカウヰスキーにいたスキージャンプの金メダリスト笠谷幸生さんと一緒にお店を廻り、ウイスキーを販売していたこともいい思い出とのこと。「いい時代に商売ができました」と話の端々におっしゃり、非常に謙虚で丁寧な仕事ぶりが想像されました。大の温泉好きでその中でも登別温泉が好みで、また、お孫さんの成長を何よりの楽しみにしているとのことでした。

現店主の誉也さんも非常に気さくなご性格で、お酒に限らずおすすめの飲食店など何でも相談にのっていただけます。ウイスキー・ビール・日本酒・焼酎など酒類全般を取り扱っておられ、希少なお酒も置かれております。

狸小路商店街の貴重な存在の酒店に、アーケードを歩きながら立ち寄ってみるのはいかがでしょうか。



二代目の勉さん



三代目の誉也さん



今では希少なウイスキーも置かれています

リカープラザ鈴木

札幌市中央区南2条西6丁目
(狸小路6丁目)
TEL 011-221-8517
営業時間：10時～22時
定休日：日・祝日



慈啓会から

地域包括支援センターについて

社会福祉法人札幌慈啓会は札幌市より中央区第2・第3地域包括支援センターの委託を受けております。

地域包括支援センターでは、大きく以下の4つの事業を行っております。

- ・ 高齢者やご家族の福祉に関する様々な相談支援
- ・ 高齢者の消費者被害や虐待など、人権を守るための支援
- ・ 介護保険制度（要支援1・要支援2）を利用している方への支援
- ・ 地域の様々な機関との住み良い地域ネットワーク作り

〈札幌市中央区第2地域包括支援センターより〉

私たちは、札幌市中央区の円山地区・南円山地区・宮の森地区にお住まいの高齢者の皆様が、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるようご支援させていただいております。介護に関する相談はもちろん、健康、福祉に関することなど、内容に応じて適切なサービスや制度の利用におつなげいたします。各種機関と連携しながらご支援いたしますので、高齢者の総合相談窓口としてお気軽にご相談ください。



札幌市中央区第2地域包括支援センター

札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6-51（慈啓会特別養護老人ホーム内）
TEL 011-520-3668

〈札幌市中央区第3地域包括支援センターより〉

私たちは地域でお住まいの高齢者の皆様が、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続ける事ができるよう、ご支援させていただくセンターとして、平成25年4月に札幌市より委託を受け発足しました。

「主任介護支援専門員」「保健師」「社会福祉士」の専門スタッフが連携して相談に応じます。これからも地域で暮らす皆様一人一人が、楽しみを持ちながら安心して暮らす事ができるよう、お力になりたいと思っております。お気軽にご連絡ください。

担当地区（曙・幌西・山鼻地区）



札幌市中央区第3地域包括支援センター

札幌市中央区南19条西8丁目1-14 第18ふじい宅建ビル2階
TEL 011-205-0537

しろいし幼稚園から

【私たちが大切にしていること】

しろいし幼稚園は 子ども中心の保育です！

「子どもの自発的な遊び」「子どもの主体的な活動」を大切にします。

幼児にとっての「遊び」とは、
「学習」そのものなのではないでしょうか

遊びの中から育つ

- 「物事への興味関心」 ～ なんだろう？ どうしてだろう？
- 「集中力」 ～ がんばるぞ！
- 「満足感や達成感」 ～ やった！ できた！ うれしい！
- 「自己肯定感」 ～ ありのままの自分でいいんだ！
- 「協調性」 ～ 私は私 でも 私はみんなの中の私

これらの育ちは、我々大人にとって「目に見えにくい力」ですが、畑の土がよく肥えた栄養たっぷりの土でなければ、美味しい作物が実らないように、子どもが小学校以降の「学力の獲得」や「しなかな人間関係の構築」、さらには大人になってから社会で「生きぬく力」を大きく育てていくための基礎、「豊かな心の土壌」となるのではないかと考えています。

子ども達の主体性を引き出す保育

教師が活動内容の細部まで決定し、それを子ども達が「こなす」ような、単に教師が正解や回答を与えるような「教師主導の保育」ではなく、子ども達自身が、身の丈に合った「生活や活動の作り手」になれるよう、



どのように子どもの「やってみたい！」の気持ちを広げ、
どのように子どもの声を拾い、
どのように子どもと対話し、
どのように子ども同士と教師が試行錯誤を積み重ねていくのか…

「目に見えやすく、大人にとって見栄えのする成果や結果」のみに目を奪われるのではなく、そこに至るまでのプロセスで、子ども達がどのような経験（疑問、思考、葛藤、折合い、判断、実行、振り返りなど）を積むことができるのかを見極め、その「手助け」をするのが教師の役割だと考えます。

学校法人新善光寺学園 しろいし幼稚園

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号
TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707 Email siroisi-pippara.ed.jp

北縁 なんでも Q & A

いつもご投稿ありがとうございます。

質問のみではなく、多くのご感想もいただいています。たくさんのお褒めの言葉や編集者へ励ましのお言葉をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。引き続きご質問、感想を募集しています。どうぞよろしくお願いいたします。

Q お勤めの話は興味深いが経典がないため理解できない、どこで購入出来るのか教えてください。また、般若心経は宗派を問わず唱えられるのか教えてください。

A お勤めの話に関してですが、お檀家の皆さんにはまず「日常勤行」というお勤めをマスターしていただくことになります。これは、僧侶も同じで、この日常勤行から様々法要へ応用しお勤めするのが浄土宗の法要式となります。この日常勤行の本はお寺に多数ありますのでお気軽にお問合せください。内容については、この寺報の23号より解説をしていますのでお読みいただきたいと思います。(バックナンバーは新善光寺のホームページで見ることができます)

般若心経というお経は、通常浄土宗では読むことがありません。しかし用いる場合もあり、祈願法要などでお唱えすることがあります。テレビ番組などでも耳なじみのあるお経で、日本でもっともポピュラーな経典と言えるでしょう。内容としてはなかなか難しいことが記されていますが、「この世の真理について」というテーマが説かれているとされています。浄土宗ではあまり用いない経典ではありますが、なじみがあるお経であるということであれば、普段お唱えして結構だと思います。

Q お寺の正門はいつ開くのか、正門を見ながらゆっくり通りたいたいです。

A お寺の正門とは、本堂の正面にある「山門」のことだと思いますが、新善光寺では現在、定例法要やお盆・お彼岸の参詣期間に山門を開門しています。法要のご案内をこの寺報でも記載していますので、是非法要へ参詣いただき、山門をお通りいただけたらと思います。またそのようなお声もあるのでしたら日常から開けておくことも検討したいと思います。



清璋寺から

明けましておめでとうございます。

清璋寺では、年明けの1月2日に“修正会並びに新春大祈願法要”をおこないました。今回は南区大松寺ご住職にもご参列いただき、声高らかにお参りの皆様とお念仏をおとなえました。

また法要後には“お餅つき”もおこない、多くの子どもたちのにぎやかな声が響き渡りました。本年もどうぞよろしくお願いたします。

(住職 太田光顯)



〈2019年清璋寺法要予定〉

3月24日13時：春彼岸法要

8月11日13時：お盆の法要

9月22日13時：秋彼岸法要

清璋寺

札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35
TEL 011-668-5110

編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年は「ほくえん」の発行が3回の予定から2回に減ってしまいましたが、2019年は3回発行を守りたいと思っております。

私も新善光寺に入って10年が既に経過しました。年齢はまだ一番下ですが、もう今年には35歳、1歳5ヶ月になるわが子の成長を見るにつれ自分自身は成長しているのかと自問自答です。謙虚な姿勢を忘れずに進んでいきたいと思っております。

どうぞ、本年も宜しくお願いたします。

(真海)

※新善光寺の日々の情報は各種SNS（ブログ・ツイッター・フェイスブック）にて公開しております。どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。

新善光寺

検索